

わがまちの「ちよつといい話」

NO. 54

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

○ 中学生が小学生に

二月二十一日から四日間、笠松中学校生徒徒会を中心に、本年度三回目の「笠松町あいさつ運動」が行われた。通学路で、毎日お世話

いただいている地域の見守り隊やPTAの皆さんに中学生が加わり、声をかける。各小学校昇降口では、あいさつ運動が終わると合同で取り組みの反省会を開く。小学生も中学生も互いの良い姿を見習いたいと話す。いっしょに取り組み始めて二年。小中学生のかかりは少しずつ深まってきた。

○ 中・高生がいっしょに！
それだけではない。初日の二月二十一日に、岐工生と笠中生が共に笠松駅前に立ち、通勤・通学する人々にあいさつのひと声をかけた。これまで別々

小・中・高生 あいさつ運動！ 笠松駅・通学路で心を届ける

に取り組んできたが、今回初めていっしょに行った。参加したのは、岐阜工業高校のMS（マナーズ スピリット）リーダーズとバレー部、笠松中学校生徒会の皆さんと両校の先生方。それに地域の青少年育成町民会議、教育委員会、道徳のまち笠松関係者などが加わった。その数は、四十数名となった。

○ 心が行き交うあいさつを
「おはようございます。」このひと声に、“朝早くからおつかれさま”というねぎらいの心や“今日も一日頑張つて”という思いやりと励ましの心を込める。返ってくるあいさつには、「朝早くから」くろうさま。ありがとう」という心が感じられる。心が行き交い、笑顔が生れ、人と人がつながる雰囲気があたりに広がる。

○ 大人の姿こそ
小中学生は、わがまち笠松を「明るく元気な町に」と願い、あいさつ運動に取り組んでいる。小中学生のみならず、私たち大人も互いに声をかけ合い、人と人がかわり合って暮らせる町であり続けたいと願う。そんな町であり続けられるかどうか。それには、あいさつ運動に対するわれわれ大人の態度も大きくかわっているように思う。



笠松駅で、中高生がのぼりを立て
ねぎらいや思いやりの心を届ける